

## 令和4年度（横須賀南）不祥事ゼロプログラムの検証等

### ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令の遵守意識の向上	常に教育公務員としての高い倫理観念を持った言動を行い、生徒・保護者及び県民の信頼に応えられるよう不祥事の根絶を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 服務に係る不祥事案について、不祥事防止研修会等で資料をもとに年間10回以上全職員で研修を行った。</li> <li>② 年休以外の休暇や公務旅行については詳しく内容の確認を行い、適切な指導を徹底した。</li> <li>③ 声掛けを繰り返して午後7時には、退庁する状況が定着した。</li> </ul>
職場のハラスメント（パワハラ・セクハラ・マタハラ等）の防止	他者への人権意識を常に持つことにより、ハラスメント行為の徹底防止を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 『かながわ人権施策推進指針』の概要版を全職員に配付し、常に人権に対する意識の向上を図った。</li> <li>② ハラスメントの情報が迅速に管理職へ報告する体制が整っている。</li> <li>③ 互いに「気になる」ことはことばをかけあい、日常的に注意を喚起することを行動計画とした。</li> </ul>
児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	生徒一人ひとりがわいせつ・セクハラ行為の未然防止について当事者意識をもって取り組み、児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の徹底防止を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① セクハラ事例のニュースや資料を使い、折に触れて不祥事防止会議を行い徹底防止を図った。</li> <li>② 生徒対応は複数で行うことと準備室の適正使用について繰り返し周知徹底した。</li> <li>③ 同僚の「気にかかる」言動はお互いに注意しあい、セクハラの未然防止に努めた。</li> <li>④ 校長が教職員全員に対し、SNSの適正使用を含む不祥事防止について個人面談を行った。</li> </ul>
体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権に対する配慮を心掛け適切な生徒指導に努め、体罰・不適切指導を防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒を指導する際は複数での対応と、生徒の人権を尊重した言動をとることを周知している。</li> <li>② SNSの使用について教員と生徒保護者に十分説明を行い、不祥事の徹底防止に努めた。</li> <li>③ 実際に起こった事例をもとに、どうしたら防止できたかを検討しながら研修会を複数回行った。</li> </ul>
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	マニュアルを遵守し関係書類の作成や取扱、確認に係る体制と手順を明確にして、事故を防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 複雑な成績処理を複数人で3回以上の確認・点検を行い、事故の徹底防止に努めた。</li> <li>② 指定校出願に当たっては、マニュアルに従って複数の教員が複数回点検を行い事故の徹底防止を図った。</li> <li>③ 出願書類の発行について、教員の担当と事務の連携を密にして、マニュアルに従ったミスのない出願業務の徹底を図った。</li> <li>④ 二つ学科の異なる入学者選抜業務を同時にミスなく行うため、マニュアルの作成からミスの徹底防止を最優先課題として取り組み、円滑な業務遂行に努めた。</li> </ul>

個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の管理と、情報セキュリティ対策を徹底して、紛失・遺漏等を防止する。	① 個人情報の持ち出しはできる限り行わないことを原則として、やむを得ない場合は管理職による確認許可を徹底した。 ② 県の原則に沿った本校の「個人情報の対策重要度分布票」に従って、重要書類の保管・廃棄を行った。 ③ 生徒・保護者に交付する個人情報が含まれた書類は、複数による点検・確認と管理職による点検を徹底して行い誤配付の防止を徹底した。 ④ 收受した文書は手渡しを原則として、無理な場合は本人専用のレターケースに保管するなど書類の紛失防止に努めた。
交通事故防止、酒酔い、酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規を守り、交通事故の発生を未然に防止し、スピード違反、酒酔い、酒気帯び運転を根絶する	① 啓発資料を利用して研修会を開催し、交通事故に対する意識の啓発を行い交通事故の徹底防止を図った。 ② 県職員による交通事故のニュースがあればその都度事故防止会議を行い、自分事として注意喚起を行った。
業務執行体制の確保等	働き方改革の具体的実施と風通しの良い職場環境づくりを行い、日常的に相互に情報共有を図り、円滑で確実な業務遂行を目指す。	① 不祥事防止研修等をとおして、当事者意識の向上を図り職場体制の構築を行った。 ② 職員間の連携を密にして不在時における生徒・者への円滑な対応を図った。 ③ 「ほう・れん・そう」の徹底を機会がある度に呼びかけ、なんでも相談できる教員間や管理職との体制を構築できた。
財務事務等の適正執行	私費会計基準を遵守し、迅速で適正な処理を行い、会計処理業務の事故不祥事の防止に努める。	① 「私費会計事務処理の手引」を利用して各会計担当者対象に研修を行い、円滑でミスのない会計処理の徹底を図った。 ② 会計担当者与管理職による点検を行い、公費と私費の区別を徹底した。 ③ 各種会計簿等を適正に作成し保管に努めた。 ④ 現金管理の削減に努めた。 検証結果から、複数人での点検、見積書・請求書等の確認も向上した。

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

日ごろから教育委員会通知、啓発資料、新聞記事等による事故事例を題材とした研修や講話を行なうと共に、新たに整備した不祥事防止会議が中心となり、校内の業務の進行状況にあわせた事故防止啓発活動により、教職員としての自覚と責任を再認識させている。

ただ不祥事につながる事例も複数起きているため、原因の分析等に取り組みながら、必要な業務改善も実施して、一層の事故・不祥事防止に努める必要がある。

具体的には次のような取組を行う

- ・自分事として考えられる効果的な事故防止研修を計画的に実施する。
- ・朝の職員打合せ時に適宜、必要資料を用いて日常的に啓発と注意喚起を行う。
- ・校長と職員と複数回の面談機会を設定し、職員の状況把握と注意喚起に努める。